

消防団員の公務災害発生状況（平成 25 年度発生事故認定分）

1 平成 25 年度の公務による負傷者等

平成 25 年度中の消防団員の公務による負傷者及び疾病者（以下「負傷者等」といいます）の人数は、1,122 人（うち死亡者 0 人）※となっています。

※平成 26 年 5 月末までに基金が支払った人数です。

2 活動態様別に見る公務災害の発生状況

これを活動態様別に見ると、「演習訓練」中の公務災害が最も多く（707 人、63.0%）、次いで多いのが「火災」（172 人、15.3%）となっています。

図にはありませんが、「火災」での活動は、地面がぬかるむ、周囲が暗い、などの現場環境で足を取られ転倒する、足首をひねる、くぎを踏み抜く、などにより下肢を負傷する事故が多く見られます。

なお、非常時（火災、風水害等の活動、林野火災、遭難出動、救助活動）の活動における公務災害は 257 人（22.9%）となっています（図 1）。

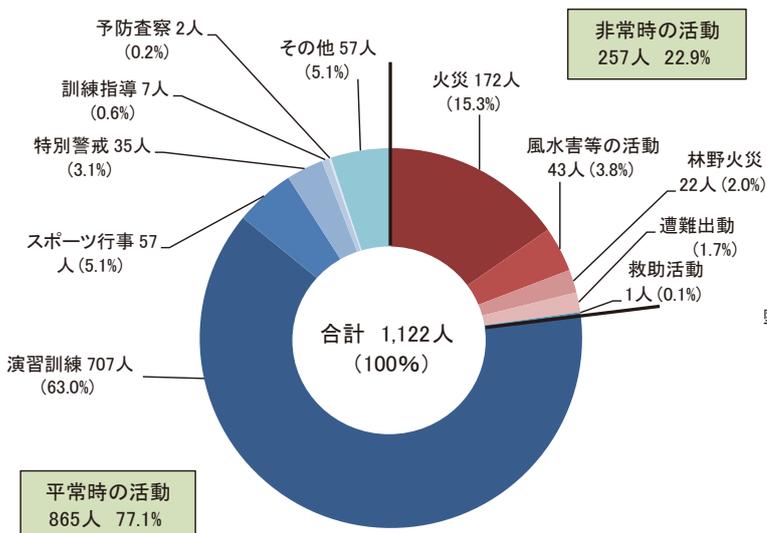


図 1 活動態様別公務災害発生状況

3 「演習訓練」時の事故発生状況

ここからは、全体の半数以上を占める演習訓練時の事故状況を更に詳しく見ていきます。

(1) 事故が多発する訓練とは

演習訓練での負傷者等は 707 人です。このうち、559 人がポンプ操作による事故で 79.1% を占め、圧倒的に多くなっています（図 2）。

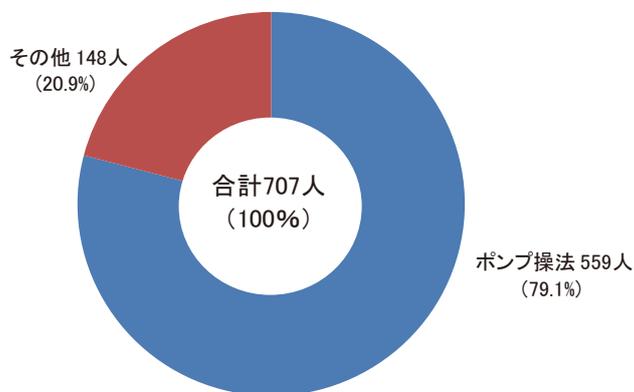


図 2 演習訓練中の公務災害発生内訳

(2) 突出する「動作の反動・無理な動作」

演習訓練時の負傷者等を事故の型別で見ると、「動作の反動・無理な動作」による災害が 431 人と全体の 61.0% を占めており、次いで「転倒」が 79 人（11.2%）、「激突され」が 40 人（5.7%）の順になっています（図 3）。

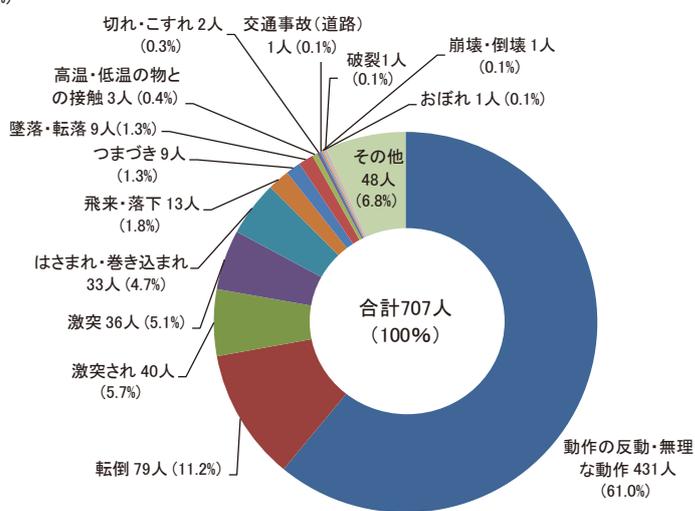


図 3 演習訓練時における負傷者等の事故型別人数

(3) 訓練では「下肢」のけがが最も多い

次に、傷病部位別で見ると、「下肢」が383人で全体の54.2%を占め、「上肢」120人(17.0%)、「胴体」82人(11.6%)の順になっています(図4)。

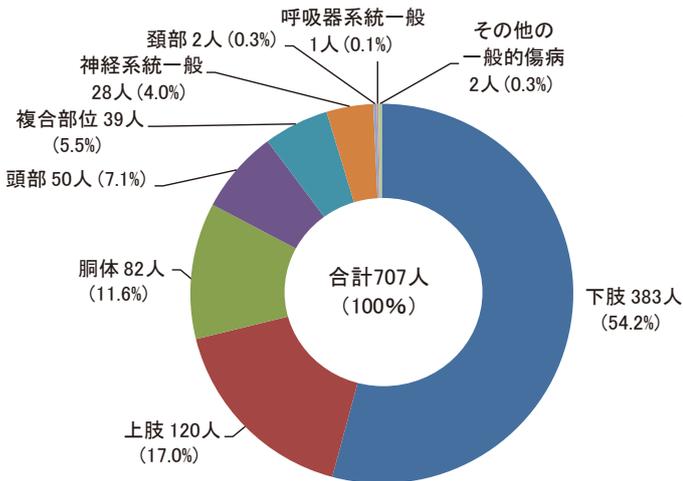


図4 演習訓練時における負傷等の傷病部位別人数

(4) 際立つ「打撲・挫傷」

また、傷病名別人数を見ると、「打撲・挫傷」が435人で全体の61.5%を占め、「脱臼・捻挫」115人(16.3%)、骨折71人(10.0%)の順になっています(図5)。

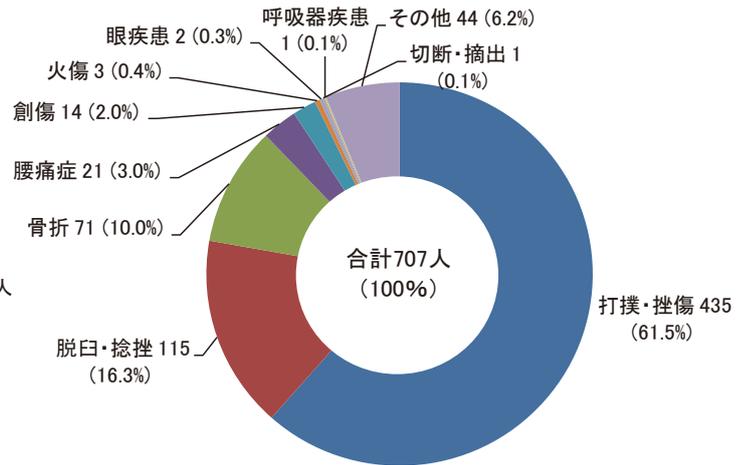


図5 演習訓練時における負傷者等の傷病名別人数

(5) 訓練時の事故の主な事例

訓練時の事故の主な事例は、次のとおりです(表)。

表 訓練時の事故の主な事例

事故の型	事故内容
動作の反動・無理な動作	2番員として操法訓練中、第2線放水時送水圧が高く筒先が動くため、姿勢を保持しようとしてふんばったところ、膝に痛みが走った。
転倒	1番員として操法訓練中、「放水始め」の伝達後、火点側に戻る途中、排水溝の蓋で足が滑り転倒した。
はさまれ・巻き込まれ	3番員として操法訓練中、ポンプ車から下車して右手でドアを閉める際、ドアの縁を保持したままドアを閉めて、指を挟んだ。
激突され	防災訓練の事前訓練中、簡易水槽に水を補給する際、ホース先端のオス金具付近を押さえていたところ、水圧でオス金具が暴れ、頬に当たった。
つまずき	操法訓練中、火点までのホース延長が終わり、機関員へ伝達しようとホースに沿って全力で走っていた際、ホースにつまずき、転倒した。

5 公務災害防止のために

消防団員の公務災害はいつでもどこでも起こり得ます。消防基金は消防団員の公務災害防止のために、4種類の公務災害防止研修事業(「安全管理セミナー」「S-KYT研修」「健康づくりセミナー」「災害救援ストレス対策研修」)を推進しており、研修に要する費用を助成しています。

他に生業を持ちながら、郷土愛護の精神で地域

防災に活躍している消防団員の安心・安全を守るため、ぜひ研修事業を御活用ください。

研修事業については、お気軽に当基金企画課までお問い合わせください(03-3595-0544)。当基金ホームページの「お知らせ」にも「公務災害防止研修会のご案内」を掲載していますので、御覧ください。

消防基金